

6・20 第6回ワイン研究会報告

*「ワイン研究会」の第六回例会は定例の第三金曜日・6月20日に12名の会員が参加して開催しました。

日時 平成26年6月20日 15時—17時

場所 カフェ「カサグランデ」(西武多摩湖線一橋学園駅傍)

出席者 荒木、井垣、伊藤(順)、伊藤(徹)、大島、栗原、佐藤(俊)、志村、滝沢、馬場、山本、横田 以上10名(敬称略)



* サッカーW杯のギリシャ戦が行われたこの日、勝利を信じて祝杯用にとブラジルワインを用意した荒木さんの願いも叶わず引き分けに終わって残念。その気持ちを次回コロンビア戦勝利への期待に込めて、恒例になったスパークリングワインの栓を勢いよく抜いての乾杯で会が始まりました。

* 今回持ち寄りのワインは、前回からの持ち越し分や会で用意したものも含めて計12本。そのうち8本がアメリカ、ブラジル、チリ、インド、日本など「新世界ワイン」という多彩さ。白ワインなどは用意したワインクーラーで早速冷やしました。



* なんといってもこの日の話題はサッカー談義から。それぞれの感想を述べあったあとは「ワイキキタイム」に。テーマは「失敗しないコルク栓の抜き方」「デキャンタージュって何?」「ワインの注ぎ方」の三点。配布資料に一通り目を通したあとは、この日自身所有の幾種類ものオープナーを持参した山本さんらがその使い方や開栓の注意などをアドバイス。さらに大島さん持参のチェコガラス製デキャンタを使ってデキャンタージュの実演もあって「研究会」らしさもチョップリ。そして、いよいよワインを「楽しむ会」へと進行。



* 今回一番の話題は、ミュージカル「エリザベト」の主人公・最後には暗殺されたオーストリア皇后エリザベトを偲んでハンガリー、オーストリアを旅した志村さんの土産話とハンガリー産貴腐ワイン。会に初めて登場の貴腐ワインの甘さに「志村さんみたい!」との感想も。ウィーンでは電車内で緊急停車用のひもを引っ張って電車を止めてしまい、ひたすら頭を下げ続けた失敗話も飛び出しました。その外、栗原さん持参の珍しいインドワインを味わったほか、店のピザや荒木さん差入れのサクランボをつまんだりしながら今回も8本の各国産ワインを次々に味わいながら賑やかに談笑するうちにアツという間のコーヒータ임に。

* 発足半年の当会のこれからについて、ワイナリー見学を企画する話なども出て意見交換の後お開きに。未開栓の4本は次回のお楽しみとしました。



* 次回(第七回)は、定例開催予定日(毎月第三金曜日)の7月18日は休会とし、8月開催としましたが、第三金曜日が旧盆に当たるため、第四金曜日の8月22日15時-17時に開催します。会場はいつもの「カサグランデ」。会費は1,500円+任意のワンコイン寄付。申込締切は8月18日(日)です。ワインを楽しみたい方、どなたでも歓迎。準備の都合あり、出来るだけ早目に井垣(090-1196-1471)まで申し込んでください。(文 井垣 写真 荒木)